

事業コード	H19-建-継-11		区 分	国庫補助 県単独
事業名	地方道路交付金事業費(雪寒)		部局課室名	建設交通部 道路課
事業種別	凍雪害防止事業		班 名	道路建設班 (tel) 018-860-2493
路線名等	(主)角館六郷線		担当課長名	加藤 修平
箇所名	大仙市 砂溜		担当者名	伊藤 茂
総合計画との関連	政策コード	C	政策名	快適で安全な生活を支える環境づくり
	施策コード	01	施策名	四季を通じて快適な生活環境の確保
	指標コード	04	施策目標(指標)名	消・融雪施設等整備率

1. 事業の概要

事業期間	H17 ~ H21 (5年)		総事業費	6.0億円	国庫補助率	6/10	
事業規模	延長 L=350m、幅員 W=5.5(9.5)m						
事業の立案に至る背景	<p>主要地方道角館六郷線は、旧中仙町を起点として旧六郷町に至る幹線道路である。また、市町村合併後の三郷町において幹線道路となるうえ冬季観光施設へのアクセス機能も有している路線である。</p> <p>当該区間は、緊急輸送路でありかつ冬季観光施設(田沢湖高原)へのアクセス区間であるため、冬季における安全で安心できる生活道路を整備することが求められており、四季を通じ誰もが快適で利便性の高い道路環境の整備を実施する。</p>						
事業目的	<p>冬期間における道路空間の確保 道路の防災対策・危機管理の充実(緊急輸送路、緊急確保路線) 冬季観光施設へのアクセスの向上</p>						
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)		計 画 時	評 価 時	増 減	理 由 等		
	事業費	600,000	600,000	0			
	経費内訳	工事費	227,000	227,000	0		
		用補費	350,000	350,000	0		
		その他	23,000	23,000	0		
	財源内訳	国庫補助	360,000	360,000	0		
		県債	204,000	204,000	0		
その他		0	0	0			
一般財源	36,000	36,000	0				
事業内容	調査・設計 用地買収補償 堆雪帯		調査・設計 用地買収補償 堆雪帯				
事業の進捗状況	用地買収補償の進捗が平成19年度末で7割を超える見込みであり、事業の進捗は平成19年度末で3割を超える見込みである。						
事業推進上の課題	特になし						
関連する計画等	あきた21度総合計画における「四季を通じて快適な生活環境の確保」を支援する事業						
情勢の変化及び長期継続の理由	平成17年3月22日に旧大曲市外7町村が合併し、大仙市となった。						
事業効率把握の手法及び効果	指標名	路線冬期幅員確保率					
	指標式	冬期幅員確保率(幅員確保済延長/路線実延長)					
	指標の種類	成果指標	業績指標	低減指標の有無	有 無		
	目標値 a	67.5 %		データ等の出典	道路現況調査		
	実績値 b	29.6 %					
達成率 b/a	43.9 %		把握の時期	平成19年 8 月			

前回評価結果等	選定または継続 改善 見直し 保留または中止
	指摘事項
	特になし
	指摘事項への対応
	特になし

2. 所管課の自己評価

観 点	評 価 の 内 容 (特 記 事 項)	評 価 点
必 要 性	雪を排雪することが困難な路線である。 バス路線となっており、冬期には雪の排雪が困難なことから道路空間を確保することが困難となっている。 交通量 H17:6,486台/日 (H11:5,741台/日)	10点
緊 急 性	事業未実施の場合冬期の道路空間を確保できず周辺への影響が大きい。 緊急輸送路であり早期の整備が必要である。	10点
有 効 性	緊急医療施設へのアクセス向上。 冬季観光施設へのアクセス向上。 (H18年度 田沢湖スキー場利用者数:114,936人、H17年度:112,033人、前期比:102.6%)	28点
効 率 性	工事にに関して、リサイクル材、プレキャスト製品の使用等によりコスト縮減を行う。	18点
熟 度	用地買収補償の進捗が平成19年度末で7割を超える見込みであり、事業の進捗は平成19年度末で3割を超える見込みである。 地域住民の事業実施の意向が強い。	23点
判 定	ランク () 「有効性」が特に高い点数となっており、冬期における安全で安心できる道路空間の確保には有用な事業箇所であり、引き続き実施すべきである。	89点
総 合 評 価	継続 改善して継続 見直し 中止	
	事業継続は妥当である。	

3. 評価結果の当該事業への反映状況等(対応方針)

引き続きコスト縮減に留意しながら事業を継続する。

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を「可」とする。

評価種別 継続箇所評価
適用基準名 凍雪害防止事業（堆雪帯）

事業コード(H19-建-継-11)
箇所名 (大仙市 砂溜)

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要	
必要性	事業の必要性					
	県民ニーズ	一般県民を対象とした調査でニーズが高い 一般県民を対象とした調査でニーズを把握 一般県民を対象とした調査を行っていない	5 3 0	5		
	社会情勢変化による需要変化	増大している 特に変化はない 低下している	5 3 0	5		
	計		10	10		
	緊急性	緊急輸送道路又は緊急確保路線				
		指定路線である 指定路線を補完する 指定路線と関連がない	5 3 0	5		
	事業未実施の影響	周辺への影響等が大きい 周辺への影響等が小さい	5 0	5		
	他事業との関連	関連事業との調整で緊急性が高い 関連事業との調整で緊急性が低い	5 0	0		
	計		15	10		
	有効性	期待される具体的効果				
	緊急医療施設へのアクセス	直接アクセスする 間接的に補完する アクセスへの貢献は小さい	5 3 1	5		
	高速IC、空港、港湾等へのアクセス	直接アクセスする 間接的に補完する アクセスへの貢献は小さい	5 3 1	3		
	冬期観光施設へのアクセス	直接アクセスする 間接的に補完する アクセスへの貢献は小さい	5 3 1	5		
	積雪時の交通安全性	地域の冬期交通円滑化、安全性向上 安全性はさほど向上しない	5 0	5		
	上位計画への貢献度					
	あきた21総合計画	施策目標の中核事業であり貢献度が高い 施策目標に間接的に貢献する 施策目標とは別のその他関連事業である	5 3 0	5		
	市町村合併関連	市町村合併の推進に貢献する 市町村合併の推進には特に影響しない	5 0	5		
	計		30	28		
	効率性	事業実施コストの縮減				
		該当項目数	3項目以上 2項目 無し又は1項目	5 3 0	3	
当初計画事業費との比較		減少又は10%未満の増加 10%以上30%未満の増加 30%以上の増加	5 3 0	5		
交通量		1,000台/日以上 500台/日以上～1,000台/日未満 300台/日以上～500台/日未満 300台/日未満	10 7 4 0	10		
計			20	18		
熟度		事業の推進				
	地元の協力体制	事業に協力的で要望書等が提出されている 事業に協力的であるが要望書等は未提出 要望書が未提出で用地の反対がある	5 3 0	5		
	関係機関との協議・調整	基本事項が合意済み 協議中であるが特に問題はない 未協議	5 3 0	5		
	事業の進捗状況					
	進捗率	計画より進捗している 概ね進捗(90～100%未満) 計画より遅れている(90%未満)	5 3 1	3		
	今後の進捗見込み	課題は解決済みで順調な進捗が見込まれる 将来的な課題はあるが当面進捗に影響がない 課題解決の見込みがなく事業が停滞する	5 3 0	5		
	環境との調和					
	環境保全への配慮	十分に配慮されている 配慮が不十分で、検討している 特に配慮はない	5 3 0	5		
	計		25	23		
	合計			100	89	

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
	優先度がかなり高い	80点以上		
	優先度が高い	60点以上～80点未満		
	優先度が低い	60点未満		